

平成25年度 新発田・北蒲体育部 活動報告

部長 佐藤 俊介

1 研究主題

「学習指導要領の趣旨を踏まえた体育学習の在り方について」

2 研究主題設定の意図

学習指導要領の中学年「ゲーム」領域にネット型ゲームが取り入れられた。これまでネット型ゲームというとソフトバレーボールが一般的であった。しかし、中学年児童にとって、ソフトバレーボールは、必要とされる技能の習得が容易ではなく、扱いにくい運動であった。そこで、ソフトバレーボールに替わる「プレルボール」という同じネット型ゲームをどのように授業に取り入れていくかについて、実技研修で学び、授業研究を通して検証した。

3 事業の実際

○第1回小教研専門部会「活動計画立案」 4月11日（木） 東豊小学校

○第2回小教研専門部会「実技研修会」 6月7日（金） 山倉小学校

指導者 高山 雄一 教諭（胎内市立中条小学校）

内容 プレルボールの基本的なルールや練習方法

○第3回小教研専門部会「授業研究」 11月1日（金） 山倉小学校

単元名 3年「ボール運動～プレルボール～」

授業者 本間 裕輝 教諭（山倉小学校）

指導者 高山 雄一 教諭（胎内市立中条小学校）

概略 今年度の研修では、3年生の児童が、自分たち

で作戦を立て、ラリーを続けるための工夫をして、ゲームを楽しむことをねらいとしていた。

ねらい達成のために、マグネット板を使用した作戦タイムを設けたり、自分たちの考えた作戦

を実際に試してみる練習時間を設けたりした。子どもたちの様子から、馴染みの薄い「プレルボール」のルールを定着させる難しさ、チームで作戦を考えることの難しさ、ラリーを続けることと得点を取ることのつながり等について課題が明らかになった。

指導者からは、対戦相手の取りにくい所を狙ってボールを返すことでラリーが生まれるという「プレルボール」がもつ運動特性を生かすこと、ボールを持たないときの動きの重要性、単元の構成方法等について、具体的に指導していただいた。

プレルボールを今後授業に取り入れるためのヒントを数多く得られる研修となった。



4 成果と課題

「プレルボール」という馴染みの薄いネット型ゲームを、中学年の体育授業でどのように扱うのかについて、実技講習会、授業研究を通して具体的に学ぶことができた。授業研究で明らかになった課題をもとに、各学校でさらに実践を重ね、ネット型ゲームの充実につなげていく。